

# 郷土資料館だより

Vol.43 No.1  
2020.7.1

## 企画展「自然と生きる～水・竹・ワラ・石～」報告

- 開催期間 令和2年1月3日(金)～3月29日(日)
- 展示資料数 121点 ●入場者数 17,970人
- 関連事業 箱根竹でハタキ作りに挑戦! 2/8(土) 参加者:7人  
展示解説 2/1(土) 11:00～・13:30～の2回 参加者:7人

かつて三島に暮らした人々が、水や竹、ワラ、石といった身近な自然・素材をいかに上手に生活の中へと取り込んでいたのかを紹介する企画展を開催しました。60代以上の方から昔を懐かしむ声が寄せられた他、20～30代の方からは「正月飾りがとてもステキで感動しました」「竹細工がとてもすばらしい」等、かつての生活用具の端々から見てとれる先人たちの工夫・技術に驚きの声があがっていました。



なお、1/7～2/16は「三島市×「刀剣乱舞—ONLINE—」コラボスタンプラリー」を実施しており、当館がラリーポイントとなったことに加え、展示室の一部で特別企画「写し 刀剣展示 in 三島市郷土資料館」(㈱ニトロプラス所蔵の刀剣の写し4振を展示)を開催していたため、たくさんの刀剣ファンが本展を訪れてくださいました。3月に入ると新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって不要不急の外出を避けることが推奨されたため、3/17に予定していた本展展示解説は中止とさせていただきます。

次回企画展 令和2年7月11日(土)～7月26日(日)

### 企画展「三島宿のジオと歴史—写真とマンガで見る—」

「伊豆半島ジオパーク」が世界ジオパークに認定されてから2年経ちました。今回の展示ではジオの視点から、火山の恵みを楽しみ、発展してきた三島宿の生い立ちを紹介します。三島宿の特徴をよく表しているジオポイント10ヶ所を静岡県地学会東部支部の協力で厳選し、三島宿の歴史を楽しいマンガで紹介します。

令和2年度富士・沼津・三島3市博物館共同企画展

### 「採る・捕る・獲る～富士・沼津・三島の狩猟と採集～」

巡回スケジュール…沼津市歴史民俗資料館 7/4(土)～8/30(日)

三島市郷土資料館 9/5日(土)～10/18(日)

富士山かぐや姫ミュージアム 10/31(土)～1/24(日)(※12/15～1/3休館)

「とる」という行為をテーマとし、山・川・海、それぞれの環境で行われてきた狩猟・採集について紹介します。

※会期は状況によっては変更になる可能性があります。詳細は当館HPにてご確認ください。

## 史跡巡り 江戸時代の三島宿

●7月11日からの企画展「三島宿のジオと歴史—写真とマンガで見る—」に合わせて、三島宿の史跡を紹介します。(今回は三島宿最大の名所である三嶋大社以外の地点を紹介します。)

### ◎千貫樋

三島宿の西の境である境川を越え、小浜池の湧水を駿河国の村々へ送る農業用水路。伊豆・駿河両国をまたぐ用水路で、江戸時代の多くの旅のガイドブックで紹介されている。頭上の樋を水が流れるという特徴的な情景は宿の西端を示すランドマークになっていた。一説には天文24年(1555)に戦国大名の今川氏と北条氏が婚姻関係を持ち、同盟を結んだ際に婿引出物として引かれたといわれている。ただし、これ以前に千貫樋の存在を示唆する資料も存在しており、応仁3年(1469)に造られたとする説もある。

### ◎西の見附・秋葉神社

見附とは宿の端に設けられた見張りをするための施設で、西の見附には正徳元年(1711)に土手・石垣が築かれ、喰い違い土手と呼ばれた。三島宿は度重なる大火に見舞われたが、その多くは宿西部からの出火が西風にあおられて広範囲に燃え広がったものであった。そこで、火防の神として知られる秋葉神社が寛政5年(1793)に宿西端に勧請された。境内には江戸時代の鳥居の脚部と思われるものが残っている(写真中央部)。三島宿問屋朝日と右衛門、世古六太夫、樋口伝左衛門ほかの名が刻まれており、防火が三島宿民全体の願いだったことを物語っている。



秋葉神社の一角

### ◎広小路

元禄10年(1697)、六反田の街道両側に幅約50メートルの広小路(火災の拡大を防ぐための空き地)と土手が築かれた。土手が築かれると、その西側の住民から自分たちの住んでいるところが三島宿の外側のように見える、と不満の声が上がり、正徳元年(1711)に土手は千貫樋付近へ移設された。



戦前の時の鐘を写す絵葉書(関守敏氏所蔵)

### ◎三石神社と時の鐘

三石稻荷(三石神社)には時の鐘があり、時を知らせていた。宝暦11年(1761)に铸造された鐘は第二次世界大戦中に供出されてしまった。現在の鐘と鐘楼は戦後に再建されたものである。

### ◎小浜池

水の都といわれた三島宿最大の湧水地で、源兵衛川・蓮沼川などの水源地となっている。明治23年(1890)頃に小松宮別邸が建てられるまでは周囲に寺社が立ち並んでいた。「東海道分間延絵図」で確認できるものとして、本覚寺(小松宮別邸建設のため、寺域が狭くなる)、七面堂(祭神は日蓮宗の守護神、竜神、女性の神様とも。現在は本覚寺境内にある)、宝国院・文微院(現存しない)、浅間神社、白滝観音堂(本尊は現在常林寺にある)、広瀬神社(小松宮別邸となった後、浅間神社に移転、その後伊豆の国市の広瀬神社に合併、昭和27年楽寿園開園に伴い再び小浜池畔へ)、愛染院(三嶋大社別当寺で広大な敷地を持っていたが、現存しない。愛染塚の近くには三嶋大社神主家や社家の人々の神道墓地が残されている。)がある。



広瀬神社

### ◎世古本陣・樋口本陣

本町交差点付近の通りの北側に世古本陣、南側に樋口本陣があった。本陣とは大名や公家など身分の高い人が宿泊する施設を指す。そのため、本陣家は大家などとのつながりを大事にし、お中元として塩鮎、お歳暮として三嶋曆などの贈り物をしていた。宿場中心部の大中島町・小中島町・久保町には本陣・脇本陣・旅籠はたごといった宿泊施設が街道の両側に建ち並んでいた。

長圓寺、円明寺の山門はそれぞれ、世古本陣、樋口本陣の門が移築されたものであるといわれている。

### ◎御殿地

社会福祉会館やその南側を敷地として、三代将軍徳川家光が元和9年（1623）将軍上洛の際に滞在するために造らせたもの。ただし、家光以後は幕末まで将軍の上洛がなかったため利用されなくなり、その後建築物は撤去された。「東海道分間延絵図」では石垣と木々に囲まれた広場のようになっているが、一部は耕作地として払い下げられたようである。社会福祉会館横にある御殿神社はもとは御殿川岸にあったが明治時代にこの場所に移された。



御殿神社

### ◎問屋場

市役所中央町別館のある場所には、三島宿の問屋場が置かれていた。問屋場とは宿場から宿場へ運ばれる旅客や荷物をリレーする場所だが、宿場における交通行政の役所にもなっていた。責任者の問屋以下、年寄、帳付、馬差、人足差などの職員が詰めており、運送に携わる人足や馬が待機していた。金銭を扱うため、賊が入り込まないように、また、横暴な武士が上がりこまないよう、床を高くした作りになっていたという。

### ◎三島代官役所

伊豆には幕府直轄領が多かったため、江戸時代前半は三島代官が置かれ、その役所は今の市役所の地にあった。江戸時代後半になると三島代官は廃止され、江川家が葦山代官として業務を引き継ぐが、三島には引き続き代官の出張陣屋が置かれた。現在、市役所敷地北東角には陣屋稲荷と呼ばれる稲荷があるが、江川文庫に残る江戸時代の絵図でもほぼ同じ場所に稲荷が描かれている。



陣屋稲荷

### ◎新町橋、東の見附

三島宿の東の境は大場川にかかる新町橋である。多くの絵図では石垣が描かれているが、幕末から明治初年作成と思われるものには黒い門も描かれている。

また、三島宿では江川代官管内で捕らえられた犯罪者の処刑が行われた。処刑は小浜山（現在は三島駅の敷地に含まれているという）で行われ、新町橋のたもとでは首がさらされた。現在、三島駅北側には供養碑が、新町橋近くには供養のための地蔵尊が安置されている。



供養碑（三島駅北側）

### ◎北・南の見附

三島宿の北の見附は甲州道（佐野街道）に置かれていた。ただし、詳細な場所は不明である。また、南の見附は下田街道にあり、現在の言成地蔵尊のあたりであったとされている。「東海道分間延絵図」や「根府川通見取絵図」では下田街道から法華寺への小道と間眠神社への小道の間の石橋が三島宿の境とされており、「東海道分間延絵図」では宿境のすぐそばに地蔵堂（言成地蔵か）が描かれている。



地蔵尊（新町橋近く）

## 三島の歴史とジオポイント・19

### ——御嶽神社——

国道1号の南に広がる「温水池」の一番東側の用水路に沿った小道を、道なりに南東に数分歩くと、青木と新谷の集落を結ぶ道路に突き当たります。御嶽神社はその右手、青木31番に鎮座します。

当社は、天正18(1590)年の検地帳に供田が記載され、寛永4(1627)年の棟札が残り、古くから青木の氏神様でした。現在の境内は224坪余ですが、往時の境内は広大で「青木の森」と呼ばれ、「東海道分間延絵図」(1806年)にも描かれており、現在の三島南中学のグランド付近まで「字・御嶽」です。

祭神は天照大神ですが、明治8年の神社統合で、付近の藤代神社・八郎社(鎮西八郎為朝を祀る)・金山社の3社と、境内にあった床浦社・八坂社・稲荷社の3社、合わせて6柱の神を合併し、さらに、日中戦争・第二次世界大戦で氏子中から出征し戦死した英霊を相殿としています。

当社で有名なのは、相殿神の鎮西八郎為朝です。弓の名手で「疱瘡」などの疫病を寄せ付けず、当社で刷ったお札を玄関に貼っておくと、疫病が家に入らず罹患しないというご利益があり、特に沼津市西浦地区の漁民などの信仰が篤かったそうです。新型コロナウイルスが蔓延している現況では、おまじないに最適ですが、残念なことに版木が盗難に合い、今はありません。

境内正面には県指定天然記念物「親子モッコク」の大木が生え、当社の主役となっています。

社名碑は伊豆の国市・北江間付近に分布する第三系の安山岩(数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、活動した火山の本体)製です。玉垣や親子モッコクの碑も同材で作られています。

こじんまりした社殿は昭和40年に改築されました。参道には4基の石燈籠が設置されています。手前の2基は昭和50年に奉納されたもので、宝珠から基礎まで全てが小室石(伊豆の国市・城山の南側にあった石切り場産、数百万年前の火山活動で放出された火山灰と火山礫が固まったもの、凝灰角礫岩)で作られています。ちなみに、左側の燈籠の中台は上下が逆に設置されています。

社殿の両脇に置かれた2基には「明和5年子11月吉日氏子中」(1768年)「奉納爾燈八良大明神」と彫られています。八郎社に奉納されたものです。

石材は三島溶岩製の基礎以外は、手前の2基と同じ小室石製です。同材が三島市域で利用されるようになったのは、明治43年(三嶋大社宝物館入り口の唐獅子)が最古と思われ、一般的には昭和30年代以降です。燈籠表面の風化も進んでおらず、堀込も鮮明なので、近年作り直した可能性が高いです。

参道右手の手水石は黒御影製です。外国産の石材でしょう。

古くから青木村の鎮守であった当社の森も、現在は宅地化が進み大半が失われましたが、「親子モッコク」など、往時の名残を後世に伝えていただきたいです。



御嶽神社と親子モッコクの大木



御嶽神社と親子モッコクの大木

(郷土資料館運営協議会委員・増島淳)

## 三嶋大社の古文書を読み解く 10

### ◆北条氏政の願書～関東に迫る織田信長～

前回に続いて戦国大名後北条氏の古文書です。掲げたのは同氏第4代、北条氏政のもので、**北条氏政判物**と呼ぶべきでしょうが、冒頭に「願書」とあるため北条氏政願書と通称しています。

「信長公が予て定められた通り、御輿を速やかに当方に入れられ（織田信長の女を氏政の息氏直に嫁がせるの意）、友好関係がさらに深まるならば、関東における氏直の支配が盤石なものとなるので、（その願いが成就したならば）三嶋大社の社殿造営につき、速やかに氏直に

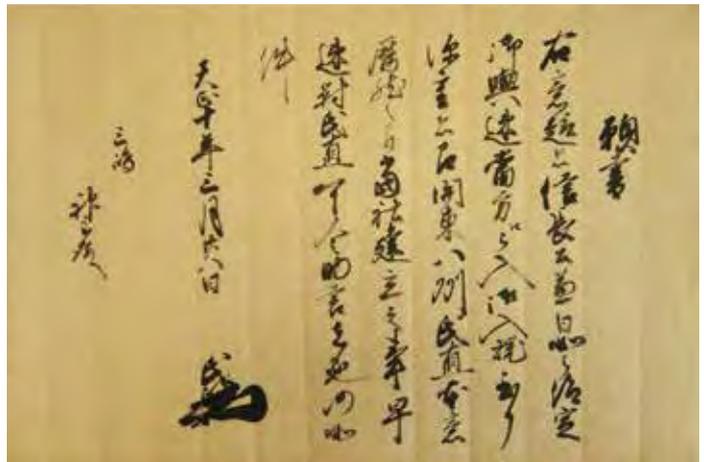
対して助言をしよう」と書かれています。氏直に助言を、と約しているのは、当時の氏政は後北条氏の総帥といつてよい立場ながら隠居の身であり、表向きの当主が氏直だったからです。

さてこの古文書は、織田信長との友好を祈願したものといえますが、なぜこの様な願いを寄せたのでしょうか。日付は天正10年(1582)3月28日。この時期は、織田政権による武田攻めがあったところ。ひと月余りの戦闘で甲斐・信濃・駿河・上野に至る広大な地域を支配した武田氏が滅亡しています。武田勝頼一統が討ち死にを遂げたのは3月11日で、この時、まだ後詰めとして美濃にあった信長は、掃討戦の差配をしつつ信濃・甲斐へと陣を進め、3月下旬には甲府や諏訪付近に在陣していました。

後北条氏と織田政権の接触は、徳川氏を介して天正7年(1579)ごろから見え、後北条氏側からの進物の様が、太田牛一の記す信長の一代記『信長公記』に度々記されています。同記によると天正8年3月には、「御縁辺相調へ」とあって、この時点で両者の婚姻話が出ていたことがわかります。これが「信長公」が予て定められた「輿入れ」というわけですね。続けて同記には「関東八州御分国に参るの由なり」とあって、後北条氏が支配する関東一円が信長の御分国となったという認識が示されています。もちろん後北条氏からすると領国を差し出したつもりは無かったでしょう。ただこの当時は、武田・上杉両氏に加え佐竹氏や北関東の国衆らとの攻防が続いており、織田政権の旗下に入ることで、その戦いで優位に立ちたいという思いがあったようです。事実、この「願書」には「信長公」とあって、後北条氏側が織田政権を上位者と認めていることを確認できます。広大な武田氏領が、短時間で瓦解したことを目の当たりにした氏政は、織田政権との関係を揺るぎのないものとする必要を感じつつ「願書」を認めたはずですね。「願書」を読む限り縁談話も特に進展がなかったように見え、三嶋神に願意を寄せねばならぬほど、差し迫った状況下にあったのです。

しかしこの頃の信長には、後北条氏との融和を不要なものと思い始めていた節がみえてとれます。4月になって甲斐にあった信長陣中に後北条氏から進物が届けられましたが、「何れも御気色に相申さず」（『信長公記』）と、信長は突き返しています。甲斐・信濃・上野各国に有力武將を配置した信長の目には、関東が次なる獲物と見えていたのは間違いないでしょう。ところがこの2か月ほどのちにあるのが本能寺の変です。6月2日未明、本能寺にあった信長は明智光秀に討たれます。甲斐・信濃・上野に跨る織田政権の新領国はあっけなく崩壊し、後北条・上杉・徳川氏らの手に落ちました。「関東八州」の支配権を守りたいという氏政の神頼みは、想定外の大事件によって叶うこととなりました。

(郷土資料館運営協議会委員・奥村徹也／三嶋大社宝物館 学芸員)



願書  
右意趣は、信長公兼日仰せ定らるるごとく、御輿速かに当方へ入れられ、御入魂深重に至らば、即ち関東八州氏直本意曆然之間、当社建立之事、早速氏直に對し助言せしむべきものなり。よつて件のごとし。  
天正十年三月二十八日 氏政(花押)

三嶋  
神主殿

## 令和元年度 郷土資料館事業報告

## ●企画展

展 示 名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「バック・トゥ・ザ・ミシママチ！」	4月27日(土) ～9月1日(日)	「三島の歴史や文化がひとめでわかる」をコンセプトに、三島の発展の礎ともいえる宿場町・三島、近代の暮らしと産業、豊富な水を活かした仕事や暮らしなどに関する展示をおこなった。	22,220人
関連事業：クイズラリー(楽寿園との連携企画)(5/1,2)319人			
箱根八里日本遺産認定1周年記念企画展 「絵図・古文書で見る箱根八里」	9月21日(土) ～12月15日(日)	東海道一の難所「箱根八里」について、「東海道分間延絵図」などの絵図(パネル含む)や石畳整備に関する古文書などで紹介した。	15,098人
関連事業：箱根八里クイズ 景品交換者244人(子ども向け132人、大人向け112人)、展示解説(10/20、11/16)計73人、講演会(11/2,30)53人、ふるさと講座(11/12)22人			
「自然と生きる～水・竹・ワラ・石～」	1月3日(金) ～3月29日(日)	過去に開催した「ワラと生活」「石と生活」「水と生活」「竹と生活」という4つの企画展の成果を踏まえ、かつて三島に暮らした人々が、この地の地盤・湧水・植生などをいかに上手に生活の中へと取り込んでいたのかを紹介した。	17,970人
関連事業：展示解説(2/1)7人、箱根竹でハタキ作りに挑戦!(2/8)7人			

- その他の展示 三島市×「刀剣乱舞 - ONLINE -」コラボスタンプラリー特別企画「写し 刀剣展示 in 三島市郷土資料館」展  
・1月7日(火)～2月16日(日) 企画展示室内にて  
・刀剣の写し4振りを特別展示  
三嶋磨師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

## ●教室・講座・講演会

	講 座 名	開 催 日	人 数	講 座 名	開 催 日	人 数
郷 土 教 室	こま・けん玉あそび	5月 4日(土・祝)	42人	江戸時代の三島宿	9月21日(土)	11人
	こどもの日体験デー	5月 5日(日・祝)	157人	江戸時代の三島宿	10月 5日(土)	48人
	古代の暮らし	5月18日(土)	94人	楽寿園の自然	10月12日(土)	中止
	昔の暮らし(回想法)	6月 1日(土)	68人	楽寿園の自然	11月 2日(土)	144人
	江戸時代の三島宿	7月 6日(土)	28人	江戸時代の三島宿	11月10日(日)	44人
	昔のあそび	7月31日(水)	57人	昔のどうぐ	11月23日(土・祝)	65人
	クラフト作り	8月 3日(土)	60人	わら細工	12月 7日(土)	45人
	機織り体験 講師：杉山洋子氏 (ギャラリーあさひ)	8月 3日(土)	9人	リリアン編み	1月18日(土)	8人
	楽寿園の自然	8月21日(水)	60人	型染め体験	2月 1日(土)	41人
	紙漉き体験 協力：三島ゆうすい会	8月22日(木)	78人	遊んで学ぼう富士山デー	2月23日(日・祝)	160人
	昔のあそび	9月 7日(土)	130人	江戸時代の三島宿	3月 7日(土)	中止
	郷土教室実施回数 20回(計画22回、中止2回)、参加者 1,349人					
講 座	ふるさと講座 「伊豆半島ジオパーク探訪⑦」 講師：増島 淳氏 (静岡県地学会東部支部長)	5月29日(水)	25人	ふるさと講座 「箱根東坂ウォーキング」 講師：齋藤幸蔵氏 (運営協議会委員)	11月12日(火)	22人
	講 座 名	開 催 日	人 数	講 師 等		
講 演 会	① 「箱根八里の公用人馬継立の制度と実態」	11月 2日(土)	31人	厚地淳司氏(静岡県地域史研究会幹事)		
	② 「再顧！箱根関所～箱根関所設置400年を迎えて～」	11月30日(土)	22人	大和田公一氏(箱根町箱根関所所長)		

講座名		開催日	人数	講師等
ボランティア講座	① 伝統的な職人の仕事の見学	9月 4日(水) 9月 5日(木)	5人 5人	遠州屋染店
	② 「静岡県の活火山を比較してみよう」	12月15日(日)	22人	小林淳氏 (富士山世界遺産センター准教授)
その他	ミュージアム・フェスタ	9月29日(日)	163人	郷土資料館ボランティア6グループ による体験イベントを実施
	箱根竹でハタキ作りに挑戦!	2月 8日(土)	7人	館ボランティア
他	富士・沼津・三島3市博物館講座 「狩りに生きた箱根・愛鷹の人々」	2月11日(火・祝)	67人	池谷信之氏 (明治大学黒耀石研究センター)
文化財ボランティア活動				
地域の文化財調査、古文書の整理・調査を行う。				
◆石造物調査の会 年間10回実施(11回計画、1回中止) 延べ143人参加 毎月1回、大場・中島・多呂・北沢地区(継続)				
◆古文書整理の会 年間15回実施(16回計画、1回中止) 延べ147人参加 毎月1～2回、的場贅川家文書・安久秋山家文書の整理(継続)				

## ○中止となった教室・講座・講演会について

- ・台風19号による休館のため 郷土教室1回(10/12分)
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため 郷土教室1回(3/7分)、石造物調査の会1回(3月分)、古文書整理の会1回(3月分)

## ●団体見学

32件 1,405人(市内小学校13件、市外小学校2件、その他17件)

## ●資料の収集、保管状況

令和元年度末現在 収蔵資料総数 44,721点(民俗6,882点、歴史36,945点、美術857点、自然37点)  
令和元年度新規受入資料 24件(内訳：寄贈22件、購入2件)

## ●刊行物

郷土資料館だより 124～126号  
企画展図録 絵図・古文書で見る箱根八里  
中 鈴木家文書史料集1(三島宿助郷関連資料を解説)  
三島市郷土資料館所蔵 的場贅川家文書仮目録(2)(入会関連資料を掲載)  
中郷地域石造物調査報告(大場追加分、中島・多呂・北沢分を掲載)  
三島市郷土資料館研究報告12

## ●令和元年度 開館日数311日 入館者数62,464人

## 新型コロナウイルス感染症対策の途中経過(報告)

新型コロナウイルス感染症防止のため、4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大されたことを受け、4月19日(日)より臨時閉館しました。その後の緊急事態宣言の延長により、一時は6月1日(月)まで閉館を予定しましたが、緊急事態宣言解除に伴い、少し期間を変更して5月23日(土)より開館となりました。ただし、2・3階の常設展示室は体験メニューや触ることができる展示品が多いことから利用休止とし、1階企画展示室のみの利用としています。

行事に関しては、3月に郷土教室などの全ての行事を中止としましたが、その後延長を重ね、現在では原則9月まですべての行事を中止としています。郷土教室は、8月7日(金)「機織り体験」を下半期に延期とし(日程未定)、その他の事業を中止としました。また、ふるさと講座(ジオツアー)、古文書整理の会、石造物調査の会、古文書入門講座は参加者が密集しやすく、会話も避けられないため9月末まで中止としましたが、古文書読習会は参加者の間隔をあけての実施ができそうなことから、当座の措置として6月まで中止とし、状況を見て7月から再開したいと考えています。今年度の新規事業として計画していた「はじめての古文書」については、6月～11月を予定していましたが、11月～3月に変更しました。

以上のことは、これからの感染流行の状況により期間延長または短縮になる可能性があります。

平成25年のリニューアルを契機に常設展示室にも体験メニューを導入し、多くの行事を企画してきました。今回の新型コロナウイルス感染症の流行ではこのような事業をそのまま継続することが難しくなっていましたので、なんとか再開するための方策を検討していきます。

## 寄贈・購入資料の紹介

令和2年3月から5月までに、次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。お礼申し上げます。また新たに1件の資料購入がありました。

### ●寄贈資料

寄 贈 者	資 料 名	点 数
下里美和子氏	古写真(昭和7年大宮町火災・同5年北伊豆震災)	28点
寺崎あい子氏	法被(建前時等に関係者が羽織ったもの)、写真(三嶋大社夏祭の手古舞ほか)、出征旗(日章旗、「武運長久」)	34点
杉崎節子氏	古写真(大正末～昭和戦前期、大場神社オテンノウサンほか)、成績通知表(中郷尋常高等小学校)、卒業記念写真帳(同前)、『北豆大震災一周年記念写真帖』	10点
吉田泰次氏	三島食品協会員証、生菓子製造業許可証(昭和25年)、国鉄三島駅50周年ミニSL記念乗車券、三島夏まつり記念入場券(昭和61年)、支那事変割引国庫債券(昭和16年)、選挙公報(昭和11年第19回衆議議員選挙静岡第2区)ほか	27点

### ●購入資料

青木家文書	江戸時代後半の古文書	約350点
-------	------------	-------

今回購入した青木家文書は、主に江戸時代後期の古文書約350点から成る資料群です。「御蔵米振附帳(嘉永4年)」、「定助郷正人足賃銭渡方控(天保2年)」など、大場村(現三島市大場)の年貢や助郷、支配に関する資料が多数含まれており、名主を勤めた家のものと推測できます。資料が伝来した経緯については不明ですが、大場村で名主を勤めた家として知られる大村家の親戚筋に青木家があり、関係が期待されます。今後数年をかけて資料の掃除、点数・内容確認などを行い、成果は地域史の調査・研究や展示に活用してまいります。



郷土資料館では、ご家庭や地域で長年保存されていた古文書や、「何かわからないけど古いもの」の情報をお待ちしています。戦後のものも、地域の歴史を伝える立派な「資料」です。断捨離の前に、郷土資料館までご一報ください。

### ●令和2年度職員紹介

館長 平林研治

職員 小林高彦 柿島綾子 笹山曜子 保科桃子

よろしくお祈りします。

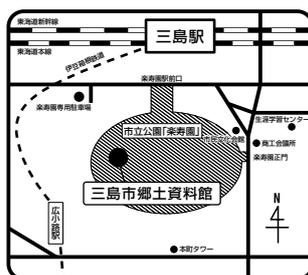
### 郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)  
午前9時～午後4時30分(11月～3月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、  
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途  
300円がかかります。15歳未満は無料、  
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

### 郷土資料館だより

Vol.43 No.1(第127号)

発行日 令和2年7月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

